



TITLE:

第4回大学教育改革フォーラム これからの教養教育をどうするか

AUTHOR(S):

CITATION:

第4回大学教育改革フォーラムこれからの教養教育をどうするか. 京都大学高等教育研究 1998, 4: 111-111

ISSUE DATE:

1998-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/53528>

RIGHT:

第4回大学教育フォーラム

これからの教養教育をどうするか

1997年11月29日（土）13：00～17：00

京都大学芝蘭会館

趣 旨

大学設置基準の大綱化以来、大学における教養教育の在り方について、議論が沸騰しております。この議論は、さしあたっては「誰がどのように教養教育を担うか」といったきわめてプラクティカルなレベルに、集中しているようにみえます。しかし、そこで交わされている議論をきちんとたどってみますと、論議の射程は多くの場合、実践的なレベルをはるかに超えて、現代社会における大学の在り方といった文明論的なレベルにまでも及んでいます。この論議の無際限な広がりこそが、教養教育をめぐる議論を難しいものにしているのです。

京都大学ではこれまで、全学共通科目レビュー委員会を中心に、教養教育に関する実践的組織的な議論が積み上げられ、さらに、昨夏と今夏の二度にわたって討論集会「京都大学の教育を考える」で、教養教育をめぐる合宿が広汎な参加者をえて実施されました。本センターでも、第一回フォーラム「日本の大学教育をどうするか」以来、さまざまな機会に教養教育をめぐる議論を組織し、教養教育に関する在学生調査や卒業生調査を実施し、公開実験授業などを通して具体的な実践を積み上げてまいりました。

今回のフォーラムでは、これらの実績を踏まえて、大学における教養教育というきわめて複雑な問題について、多面的かつ立体的に議論を展開したいと考えます。まず、教養教育をめぐる諸問題について総括的な講演をいただき、さらに、今日の教養教育の具体的実践的な問題を、大学の組織経営の観点および実施側の観点から報告していただきます。次いで、この講演と報告に対して、教養教育の実情を組織的に見直す立場、教育社会学の立場、高等教育論の立場のそれぞれから、コメントを加えていただきます。最後に、これらを受けて、参加いただいた皆様も交え、これからの教養教育をどうするかについて議論していきたいと考えています。

ご多忙のおりかとも存じますが、問題関心を共有する方々の幅広く積極的なご参集をお願いいたします。

はじめに 福 井 有 公 （京都大学高等教育教授システム開発センター長）

講 演 「今日の教養教育問題」

市 川 昭 午 国立学校財務センター教授

報 告 「教養教育の組織化について」

森 正 夫 名古屋大学文学部教授・副総長

三 好 郁 朗 京都大学総合人間学部教授・学部長

コメント

「組織の見直しの観点から」

万 波 通 彦 京都大学工学研究科教授・図書館長

「教育社会学の観点から」

竹 内 洋 京都大学教育学部教授

「高等教育論の観点から」

田 中 毎 実 京都大学高等教育教授システム開発センター教授